

ウィークリー・ブレッド・オブ・ライフ

(2026年2月23日(月)～3月1日(日))

岸和田聖書教会

牧師 栗原純人

今週も民数記を読み進めます。

2月23日(月)

今日の聖書日課：民数記 27：1～23

主はモーセに言われた。「あなたは、神の霊の宿っている人、ヌンの子ヨシュアを連れて来て、あなたの手を彼の上に置け。彼を祭司エルアザルの前に、また全会衆の前に立たせ、彼らの目の前で彼を任命せよ。

民数記 27：18～19

世代交代です。すなわちイスラエルのリーダーがモーセからヨシュアへ変わっていくということ。このときすでにモーセの兄、初代大祭司のアロンは死んでいました。その後を受け継いだのはアロンの子エルアザル。祭司も世代交代していたのです。ヨルダン川を渡る前、約束の地に入る前に主は、このように計画されていたのです。

私たち岸和田聖書教会も、神さまのみこころを尋ね求めつつ、この世代交代がなされていきますように。それによってさらに主のわざが前進していきますように。

2月24日(火)

今日の聖書日課：民数記 28：1～15

主はモーセに告げられた。「イスラエルの子らに命じて彼らに言え。あなたがたは、わたしのための食物、わたしへのささげ物を、わたしへの食物のささげ物、芳ばしい香りとして、定められた時に確実にわたしに献げなければならない。

民数記 28：1～2

約束の地を前にしてリーダーシップの交代が行われたその後に、主はささげ物について、また記念として祝う祭りについてモーセを通して命じられました。穀物は荒野の旅では得られません。それは約束の地で彼らが収穫するもの。このように先にささげ物のことを命じるのは、彼らが必ず約束の地に入り、それを主から受け取るということを信じるためでもありました。信仰がなければ「捕らぬタヌキの皮算用」。しかし主は、先にこのささげ物のことを命じることで、彼らのこれからの戦いに備えさせたのです。

2月25日(水) 本日は祈祷会です

今日の聖書日課：民数記 28：16～31

第一の月の14日は、過越のいけにえを主に献げなければならない。

民数記 28：16

今日の箇所には、「過越の祭り」、「初穂の祭り(七週の祭り)」とそのささげ物について主の命令が述べられています。初穂の祭りはその名のとおり、収穫を感謝する祭り。やはり約束の地で祝われるもの。これから、約束の地に入り、そこを占領した後に献げる祭りです。しかし過越の祭りは、エジプトを脱出する時、またその翌年から40年間、献げられてきました。それは、エジプトを脱出するまえに、子羊の血がイスラエルの家の門柱と鴨居に塗られ、その家を主が過ぎ越され、さばきを逃れさせてくださったことを覚えることでした。

これは後に、神の子羊イエス・キリストの十字架の死を表すものとして示されました。

私たちはどこにいても主の十字架の死を感謝し、その血によって救われたことを喜び、礼拝するのです。

2月26日（木）

今日の聖書日課：民数記 29：1～11

これとは別に、新月祭の全焼のささげ物とその穀物のささげ物、常供のささげ物とその穀物のささげ物、および、それらに添える注ぎのささげ物、すなわち、規定による、主への食物のささげ物、芳ばしい香り。

民数記 29：6

今日の聖書日課には「新月祭」について記されています。第七の月なのに、新年を祝う新月祭とは？「これは一年の農作業が終わり、主の前に新しい霊的な備えをするための時でした。」（『みことばの光』2月号）。これもまた、約束の地で必ず農作業をすることになる。主への感謝を献げる。それが毎年繰り返される。それを先取りして、命じられたものでした。

2月27日（金）

今日の聖書日課：民数記 29：12～40

モーセは、主がモーセに命じられたとおりを、イスラエルの子らに告げた。

民数記 29：40

新しい地におけるささげ物、祭りについて、その方法、ささげ物のことについて、モーセは主が命じられたとおりを、イスラエルの子らに告げました。モーセは何を考えてこれらのことを語ったのでしょうか？自分は約束の地に入れない。ヨシュアへのリーダーシップの移行はすでに行われていたのです。ある意味のさびしさ、うらやましさを覚えたことでしょうか。しかし彼は語りました。主のことばを。自分ではなく主の民のために。いや主の御名のために。

モーセはこれ以降も語りました。語り続けました。申命記はモーセの「遺言」とも言える書。

私たちもまた、この地上での歩みが終わるその時まで、主の民のために教会のために、祈り、仕えるものでありたいと思います。

2月28日（土）

今日の聖書日課：30：1～16

男が主に誓願をするか、あるいは、物断ちをしようと誓う場合には、自分のことばを破ってはならない。すべて自分の口から出たとおりのことを実行しなければならない。

民数記 30：2

「誓願」。誓い願うと書きます。これは、主が命じられたささげ物ではなく、イスラエルの中で自らが主に向かって献身を表わす者についての教えでした。言われたことをする。だけでなく、主への感謝と喜びのうちに献身を示す。主体的な礼拝を神さまは喜ばれます。それだけに、この誓願については「口から出たとおりのことを実行しなければならない」。厳しく命じられているのです。

3月1日（日）

本日の礼拝説教箇所：民数記 31：1～8「神の民とともに」

バラムが殺された！ どういうことでしょうか？ 礼拝のために備えて主の前に出て行きましょう！